明日へ向かって

第３学年　　学年だより
令和５年　　１１月９日
第４６号

“奏”意工夫の学習発表会②

今回は学習発表会を終えて、みなさんが感じたことを紹介したいと思います。

今年の学習発表会は色々あった。まず、合唱コンクール。私はこの合唱コンですごくありがたいと思った。最後までまとめてくれて、「これで 100%勝てる！」と言ってくれた合唱委員、アルトを支えてくれたパートリーダー、虹をより良い曲にしてくれたソリパートの人たち、頑張ってくれたピアノや指揮の人、自由曲に向けて士気を高めてくれたクラス紹介の人、ずっと私たちを信じて応援してくれた先生。たくさんの人のおかげで３年３組にトロフィーがかざってある。それがすごくありがたいと思った。私もこの人達のように、みんなを引っ張れる人になりたいと思った。

そして、アート部の展示とアニメーション上映。私たち３年生は、学習発表会でアート部を引退する。まだあまり現実味というものがないが、友達としゃべれて、自分の好きなものを描けるアート部は特別なものだった。今後、１・２年生はこのアート部を変わらず、繋いでいってほしいなと強く思う。これから大変なことがあると思うが、３組のメンバーで歌った歌と「みんなを引っ張れる人になる」という決意と今までの日々を胸に、逃げずに努力し続けていきたい。　　３組

僕は展示や会場準備などに関わっていなかったが、準備してくれたことにより自分たちや他のクラスも気持ちよく歌えたと思っている。だからこの学習発表会はただ自分たちが優勝してうれしいだけではなく、準備してくれた方々に感謝も忘れずに学習発表会を終わらせることができた。林先生が言っていたように、１組や２組が練習よりもあんなに上手く歌えた中でそれを超えるという決意をもって合唱を披露できたことが、本当にうれしい。自分は歌に不安が残って練習でも自信をもって歌えなかったが、　　君をはじめ、リーダーたちのおかげですこしずつ強弱や歌詞の言葉の変化を意識して歌うことができた。　　君やパートリーダーのおかげで初めて自分から積極的に、迷惑をかけないように歌うことに努力できた。

この学習発表会は３組の団結力だけじゃなく、展示の所でもひとつひとつの作品に努力が感じられて、いろんな思いがつまったいい思い出になった。この経験はずっと心に残っているし、入試やこれからの人生に通用する心構えを学ぶことができたとよく感じることができた。３組の団結力を運動会に続いて再確認することができたし、この仲間と先生だったらストレスなく受験を乗りこえられそうで安心した。　　３組

今回は九中に入ってから初めての制限なしの学習発表会ということで、とても楽しみにしてきた。今まで他学年の合唱を生で聴くことはできなかったので、特に待ち望んでいたのだが、やはり生で聴くとそのクラスが練習してきた道のりやその努力、曲に込めた思いなどが本当にひしひしと伝わってきて感動した。来年度もこの先もずっとこの感動を感じられるような合唱コンにして欲しい。また、私は今年が最後の九中の合唱コンなので練習にも熱が入った。クラス全員でとても平和に仲良く、でも真剣に取り組んできた日々は大切な思い出になった。このクラスで歌い、作り上げてきた曲や道のりのことを、きっと折に触れ思い出しては勇気づけてもらうと思う。本番はありえない程緊張していたが、曲が始まって　　さんの指揮を見たら練習の日々を思い出してあたたかい気持ちで歌うことができた。舞台上では、まさに奏意工夫してきた三組の歌を表現できて良かった。展示もそれぞれの個性があふれた見応えのあるものばかりでとても楽しかった。演劇部の発表には感動したし、吹奏楽部はとても盛り上がって、全部を満喫できた学習発表会だった。　　３組

私は今回の学習発表会を振り返って、いくつか心に残ったことがあります。私は３年生になるときに転校してきたので、今回の学習発表会が最初で最後だったのですが、とくに合唱コンクールはとても心に残っています。合唱コンの練習の時、最初のほうは高い声が出づらく、虹の高音パートに苦戦していましたが、練習を重ねるにつれ高音が出るようになってゆき、本番では歌いきることができました。また、声も小さかったのですが、最後のほうでは自分でも驚くほどに声が出ていて練習して良かったと実感しました。練習最初のほうでは他の人に合わせることができるか不安でしたが、３組の力を合わせ、見事に金賞をとれたことがとても心に残っています。またその他の学年やクラスでも練習に力を入れていることが伝わってくる歌声で感動しました。

映画演劇部の劇や吹奏楽部の演奏など、心に残るものが多く、とても楽しく３組の協力を強めることのできた学習発表会だったと思います。　　３組

面接練習始まる

第１弾・第２弾面接練習が始まりました。第１弾では「私立併願優遇」組を中心にグループ面接を実施、第２弾では「推薦入試」組の個別面接を実施しています。

今回の一連の練習は三者面談期間中に実施しますが、次回１２月の三者面談の裏でも「推薦入試」（および一般入試で面接のある生徒）希望者を中心に実施します。また、集団討論練習も対象者の時間を合わせた上で実施します。

自分を作ると失敗する

こういう言い方も生々しくて好ましくないのかもしれませんが、今の入試では、「面接」はほとんどの人が通らなければならない受験科目となってきています。特に私立受験の場合は「面接と作文」などという入試システムの学校や、自分で自分の長所を売り込むシステムのところがあり、面接への臨み方は重要になってきます。

高校側に対し、ウケのいい応答をしようと、日頃の自分とは違うことをやると失敗します。応答もぎこちなくなります。次の２つの観点に注意しましょう。

１　自分を正直に表現しよう

体裁のいい答えをむりやりひねりだすようなマネはせず、むしろ自分が思っていること、感じていることをしゃべったほうがスムーズですし、意欲が感じられます。

２　日頃から言葉遣いに気を配る

①目上の人に対する言葉遣い

②「お父さん」ではなく「父」等の表現は、その時だけやろうと思っても難しい。目上の方に対する言葉づかいがおろそかな人は注意が必要です。

「作る」必要のない「日常」

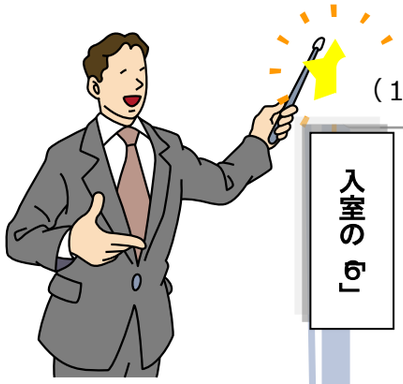
もう三年生ですし、受験ということを差し引いても、義務教育が終わるわけですから、日頃から TPOをわきまえた行動が取れるよう、自分を磨いていく必要があるのではないでしょうか。「言葉づかい」「話し方」「目上の人への態度」「入退室のマナー」「提出物関係」など、教科の授業では学べないことを、学校生活の中で学んで身に付けていくことが大切。その気になれば、職員室への入室、退室、職員室での先生方との会話などで、それらが「できるように訓練する」こともできます。

高校生になり、バイトなどの社会勉強を考えている人もいるのではないですか？　今、馬鹿げた行動・常識的に信じられない行動を軽い気持ちで投稿する若者が問題視されています。「わきまえた行動」は、そのときだけ、とってつけたようなものでは、必ずボロが出ます。

「わきまえる」ことの大切さは絶対です。

このようなことから、「わたしには（入試には）面接がないから」という理由では、日常の言葉遣いやマナーに気を配らなくても良い、ということにはならないと思います。アドバイスに素直に耳を傾け、これをチャンスに自分を磨きましょう。「進路を決める取り組みを通して、自分という人間を磨く」です！！

基本中の基本　～これだけは～



（１）入室・退室の「６つの手順」

入室の「6」

①ノックする。
②「どうぞ」など、中から返事があったら入る。
③ドア、戸を開ける。
④開けたら一歩、入室して「失礼します。（言う）」→礼（おじぎ）
⑤戸を閉める。<u>注意：逆手で閉めないこと。</u>
⑥椅子の所まで行って「お願いします（言う）」→礼。
　注意：許可があるまで座らない。

退室の「6」

①終わったら、椅子に座ったまま軽く会釈をし、立つ。
②「ありがとうございました。（言う）」→礼（おじぎ）
③まっすぐ戸の所まで行き、ドア、戸を開ける。
④開けたら一歩、退室して面接官に向き直る。
⑤「失礼します。（言う）」→礼（おじぎ）
⑥戸を静かに閉める。

（２）動作・会話の「３つの作法」

①応援団ではない。むやみに大きい必要はない。
　「はっきり」「落ち着いた」「相手に届く」しゃべり方、音量で。
②「早口にならない」「余計なことまでしゃべらない」「しゃべり始めと終わりが合致するように」
③一つ一つの動作を流さない。
　例えば入室の「６」の⑥など、お願いしますとしゃべりながら礼をしたりしない。

今後の予定

１３日（月）	期末考査１週間前　①予想問題　⑤カット
１４日（火）	三者面談　⑥カット
１５日（水）	三者面談
１７日（金）	⑥カット